

盛岡市（岩手-B）における地域精神保健医療福祉システムの 再構築に向けた支援者支援に関する報告

研究分担者 伊藤順一郎¹⁾

研究協力者（主執筆者に○） ○安保寛明²⁾ 寺井良夫³⁾ 金野万里³⁾ 佐藤充子⁴⁾

- 1) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
- 2) 社会医療法人 智徳会 未来の風せいわ病院
- 3) 一般社団法人 SAVE IWATE
- 4) みっこ倶楽部

要旨

盛岡市は、人口がおよそ30万人で、圏域広域人口が50万人弱の、岩手県の県庁所在地であり中核市である。震災後に沿岸から盛岡市へ避難または転居してきた沿岸出身者に対する支援が必要であり、その人数は500人以上いる。岩手県内陸部では、仮設住宅ではなく民間賃貸住宅借上げによる応急仮設住宅（みなし仮設）という制度を用いているため、避難者のコミュニティ（自治会など）が成立しにくく、孤立を避ける支援が必要であると予想されている。

震災を機に新たに結成された支援団体 SAVE IWATEが、内陸避難者に向けた支援事業を委託されている。自らも被災者である職員や従前は支援業務についていない職員が多くおり、支援や組織維持に向けた支援が必要である。平成26年度は、SAVE IWATEの職員が日本精神障害者リハビリテーション学会の年次大会に震災復興関連団体の展示を行い、精神保健福祉医療に関する関係者が復興支援関連の取り組みを知りつつ復興支援関連の団体の職員も精神保健福祉医療で重視されつつある要素（リカバリー、ストレングスなど）に触れる機会をもった。精神保健福祉医療で重視する支援の要諦は震災による被災者に対する支援でも有益であると考えられる。

A. 研究地区の背景

1) 震災後の経過と内陸避難者の精神健康

盛岡市は、人口が約30万人の都市であり岩手県の県庁所在地である。岩手県庁および岩手県の中核機能を備えており、岩手県に本社機能のある企業の多くが盛岡に本社をおいている。

2011年3月11日に発生した東日本大震災による被害は、盛岡市内では救急搬送が5件あったものの軽症なものであった。一方、盛岡市内に住所をもつ方のうち33名が沿岸地方を襲った津波によって死亡した。宮古市などの沿岸市町村に比べると被害は軽微であり、支援基地としての役割をもつようになった。

盛岡市には、最大で4,496名の避難者が、盛岡市内の64ヶ所の避難所にあつまった。その後、仮設住宅の建設ではなく現存する賃貸物件を活用した、「民間賃貸住宅借上げによる応急仮設住宅（みなし仮設住宅）」を活用し、盛岡市には1,000人を超える沿岸出身者が移住することとなった。その後、みなし仮設住宅に住む住民は、徐々に生活の拠点を出身地や盛岡で確定されていき、現在のみなし仮設住宅入居者は600人を下回っている（表1）。

岩手県内陸部では、避難者の生活にみなし仮設の形式をとったため、仮設住宅等でよくある自治会が結成されにくく、支援ニーズが把握されにく

いと考えられている。同様の理由により、みなし仮設に入居する方々に対する全戸訪問等の大規模調査は実施されにくく、盛岡市に居住する避難者の精神健康度は定量的なデータがない。そのため盛岡市では、東日本大震災、津波の避難者を対象にアンケートを行い、現在の住まい・仕事の状況や今後の居留意向などについて調査した¹⁾。

市内のみなし仮設住宅に入居する 442 世帯に実施し、213 世帯 (48.2%) から得られた回答によると、近所との交流が、「たまにある」と答えた世帯が 41.5%あり前年度の同調査 (37.3%) より増加している。また、近所との交流があると回答している人に盛岡市への「住みやすさ」を感じている人の割合が高い傾向があった¹⁾。

今後の住まいについては、「震災前に住んでいた市町村で住宅を再建したい」12.3% (前年度 9.4%)、「震災前に住んでいた市町村で災害公営住宅・民間住宅に入居したい」12.7% (同 8.3%) で約 25%が地元での再建を望んでいる。「盛岡市内で住宅を再建したい」17.5% (同 16.9%)、「盛岡市内で公営住宅・民間住宅等の賃貸住宅に入居したい」20.3% (同 18.8%) と盛岡への定住を望む人も 37.8%と増加。「未定」とする人 32.1% (同 39.8%) いて、減少傾向にあるものの一定割合の人が住居に関する方向性を決められずにいる。また、住宅再建を希望する世帯の 33.3% が「場所、費用両方めどが立たない」と回答し、「場所と費用のいずれかの目途が立たない」を合わせると 57.1%に達している²⁾。

2) 盛岡市で行われる支援の概要

盛岡市には、大きく 2ヶ所の支援拠点がある。一つは、盛岡市役所内丸分庁舎に設立されている、「もりおか復興支援センター」であり、もう一ヶ所が盛岡市本宮に開設された、「しえあハート村」である。

「もりおか復興支援センター」は 2011 年に設立され、一般社団法人 SAVE IWATE (以下、SAVE IWATE という) へ実施業務が委託された。2011 年には、震災直後に設置された避難所へ職員を 2

名配置し運営にあたり、その後は「民間賃貸住宅借上げによる応急仮設住宅 (みなし仮設住宅)」の活用により、民間賃貸住宅を借り上げて提供することで被災地域出身者の対応を行っている。また、被災者への情報提供や生活相談などを行っている。みなし仮設住宅には、平成 27 年 1 月時点で 294 戸数 592 名 (表 1) が盛岡市内に居住している³⁾。

もう 1ヶ所の支援拠点が、盛岡市が都市再生機構 (UR) から無償提供された住宅 25 棟を活用した「もりおか復興推進しえあハート村」である。2012 年度から住宅を利用して運用してきた「もりおか復興支援学生寮」のほか、ボランティア宿泊施設「ボランティア番屋」、地域コミュニティーセミナーハウス、復興支援シェアオフィス、復興支援コミュニティーカフェ「しえあハート村マルシェ」、復興推進デジタルコンテンツシェアオフィス、の 6 事業が設置されている。

なお、復興支援シェアオフィスには、公募で選ばれた復興支援団体の「遠野まごころネット」、「ゆいっこ盛岡」、「ブラインドドリーム」、「サンガ岩手」、「助けあいジャパン」の 5 団体が入居しており、活動拠点を集約することで連携を図っている。

現在、もりおか復興支援センターによる「お茶っこ飲み会」や定期的な避難者の訪問を実施している。2013 年度からは、畑仕事を通じて外に出る機会が少ない男性が市民と交流できる被災者の健康と生きがいがづくり事業などにも取り組んでいる。

3) 盛岡における地域精神保健福祉システムと被災者支援・復興支援の協働に向けて

盛岡市では、従来から在った地域精神保健福祉システムは組織や拠点がなくなる等のハード面の変化は起きなかった。また、盛岡市にはこころのケアセンターに代表されるような岩手県内全域に対する精神保健福祉システムが多く存在している。

盛岡市は、震災後の支援において沿岸被災地の

後方支援をする地域として機能していると言える。被災者に対する支援でも、盛岡に拠点をもつ法人、SAVE IWATE は盛岡に住む避難者への支援を行うとともに、県内の各支援団体とのネットワークを持つ役割を有すると思われる。

B. 支援者支援の内容

上記の内容を踏まえ、平成 26 年度は以下のような支援を行った。

1) 支援プログラムの開発と運営支援

物資支援に対するニーズの低下と、相談支援やサロン活動に対するニーズの高まりがあり、2012 年 7 月から「番屋こびるの会」を 1 ヶ月に 1 回の頻度で開催していたが、平成 26 年度は定期開催せず、もりおか復興支援センターでのサロン活動に集約した。この会は、盛岡在住の沿岸出身者（多くがみなし仮設入居者）が集まることのできるサロン活動の場として設置した。

物資提供と相談支援やプログラムの運営では職員に求められる知識や能力に違いがあり育成する必要があるため、盛岡市地域の専門職者が運営をサポートし、会の開催毎にプログラム検討会を行った。

また、SAVE IWATE の学習支援チームでは、被災地（山田町）に住む子どもや盛岡市に避難している子どもに向けた学習支援活動を行っている。夏と冬にキャンプを行っており、参加する子ども達がキャンプに参加することによる精神的動揺が発生する可能性も踏まえ、研究協力者が対応に関する助言をおこなった。

2) 研修等による支援

震災復興支援団体として存在している SAVE IWATE には精神保健福祉や相談支援の専門職者である者が少ない。一方で、もりおか復興支援センターで行う事業の多くが被災者の生活支援であるが、その中、必要な要素に精神保健福祉医療で重要な、ストレングスへの着目、リカバリー視点などの要素が活用可能である。そのため、平成

26 年 10 月 30 日～11 月 1 日に開催された日本精神障害者リハビリテーション学会の年次大会に一般演題の発表と関連展示を行った。上記大会はテーマを「リカバリーの風—人へ社会へ未来へ」としていた。演題発表や展示の実施をきっかけに精神保健福祉の専門職者と復興支援関係団体の交流や情報交換が行われた。

また、学習支援を行うグループや訪問による生活相談をしているグループがあるものの、精神障害および精神保健福祉に関する研修が実務につながるという感覚を持ちにくい職員もいるため、発達障害者に対する支援についての研修経験を有する方を講師に招いた援助の工夫に関する研修を行った。また、体験を伴う研修の有効性を探るため、サイコドラマ（心理劇）を活用するワークショップを実施した。また、幹部職員等に対するストレングスモデルによるアセスメントの工夫を紹介した。

C. 今後の課題と考察

震災から 4 年が経過し、内陸へ避難して暮らす方々の状況にも変化が生じてきている。みなし仮設に住む方は徐々に減少してきているものの一定数存在しており、その方々の生活状況に合わせた相談が今後必要となるだろう。

盛岡在住の被災者および沿岸出身者は、徐々に盛岡市内のコミュニティに統合されつつあることが予想されるが、盛岡市内の地域の集まりなどに参加しにくいままである方もいるため、いわゆる援助につながりにくい状況になっていることが予想できる。地域住民のニーズが見えにくいなかで関係を維持していくことが必要であり、ストレングス、リカバリー、地域重視といった地域精神保健福祉の知見を活かすことが可能であるだろう。特に、ストレングスモデルとリカバリーゴールに向けた支援は精神障害や障害分野に限らず、災害弱者に対する支援で重要な基盤であるため、SAVE IWATE の職員が行っている被災者支援においても今後も重要な視点となると思われる。

る。

また、SAVE IWATE の職員自身も被災や様々な困難をもっている場合があり、職員自身の経過や経験を否定せず尊重しながら今後へつなげていくことが大切である。

D. 結論

震災後発足した団体である SAVE IWATE は、震災後 4 年が経過するなかで、盛岡市や内閣府などの助成を受けて内陸部に避難している被災者や、被災地で就職や起業を行おうとする被災者への支援へと変化してきた。このニーズ変化は、精神医療や精神保健福祉の分野で見られる、回復過程のモデルを適用するとニーズの変化が捉えやすいと見え、プログラム開発や職員研修等を行った。

E. 健康危険情報 特になし

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的所有権の所得状況 特になし

文献

- 1) 交流の少なさ、再建へ不安も 盛岡市 内陸避難者アンケート結果.『盛岡タイムス』2013年 10 月 23 日朝刊.
- 2) 応急仮設住宅、みなし仮設住宅の被災者の状況. (岩手県震災復興関連ホームページより)
www.pref.iwate.jp/saiken/sumai/023870.html
- 3) 暮らしの再建に向けた当面の課題と取組み. 岩手県復興局 (東日本大震災支援全国ネットワークによる資料から).
http://www.jpn-civil.net/activity/hisaichi/genchi_kaigi/docfiles/120713_iwate_handout_00_2.pdf

表1 応急仮設住宅、みなし仮設住宅に住む被災者の状況（平成27年1月末時点）

1月31日 時点		応急仮設住宅		みなし仮設住宅						応急仮設等合計	
				民間賃貸住宅		公営住宅等		みなし仮設計			
		戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数	戸数	人数
①	陸前高田市	1,677	4,127	52	153	55	148	107	301	1,784	4,428
②	大船渡市	1,330	2,839	272	665	75	198	347	863	1,677	3,802
③	釜石市	2,226	4,632	233	575	234	951	467	1,526	2,693	6,158
④	大槌町	1,694	3,516	57	166			57	166	1,751	3,682
⑤	山田町	1,657	3,596	131	372	4	11	135	383	1,792	3,979
⑥	宮古市	1,351	2,723	322	801	44	122	366	923	1,717	3,646
⑦	岩泉町	78	171	12	29	1	2	13	31	91	202
⑧	田野畑村	67	141	4	13	1	2	5	15	72	156
⑨	野田村	112	295	23	77			23	77	135	372
⑩	久慈市	4	8	41	112	3	5	44	117	48	125
⑪	様野町	1	1	1	5			1	5	2	6
⑫	普代村			1	2			1	2	1	2
1	住田町	49	114	6	18			6	18	55	132
2	遠野市	23	37	17	41	19	49	36	89	59	126
3	盛岡市			259	527	35	65	294	592	294	592
4	花巻市			52	109	32	71	84	180	84	180
5	北上市			60	115	35	72	95	187	95	187
6	二戸市			1	1			1	1	1	1
7	一関市			107	257	59	123	166	380	166	380
8	八幡平市			1	2			1	2	1	2
9	奥州市			42	95	23	42	65	137	65	137
10	雫石町			5	16	1	4	6	20	6	20
11	葛巻町									0	0
12	岩手町			24	58	6	15	30	73	30	73
13	滝沢市			14	38	4	14	18	52	18	52
14	紫波町			19	46	6	15	25	61	25	61
15	矢巾町			1	3			1	3	1	3
16	西和賀町			4	5	1	2	5	7	5	7
17	金ヶ崎町									0	0
18	平泉町									0	0
19	軽米町									0	0
20	九戸村									0	0
21	一戸町									0	0
小計	沿岸計	10,197	22,049	1,149	2,970	417	1,439	1,566	4,409	11,763	26,558
	内陸計	72	151	612	1,331	221	472	833	1,802	905	1,953
県内計		10,269	22,200	1,761	4,301	638	1,911	2,399	6,211	12,668	28,511

岩手県復興局生活再建課のホームページより